

クロストリディオイデス・ディフィシル(CD)トキシン陽性患者発生率

自院

指標の意義

クロストリディオイデス・ディフィシルは毒素を産生することにより、腸管粘膜の傷害と炎症を引き起こす細菌です。適切な手洗いや器具の使用など感染対策が徹底されているかを示すアウトカム指標です。

抗菌薬を使用することで正常な腸内細菌叢が乱れ、クロストリディオイデス・ディフィシルの割合が増大することが発症の病態に関わっていると考えられています。

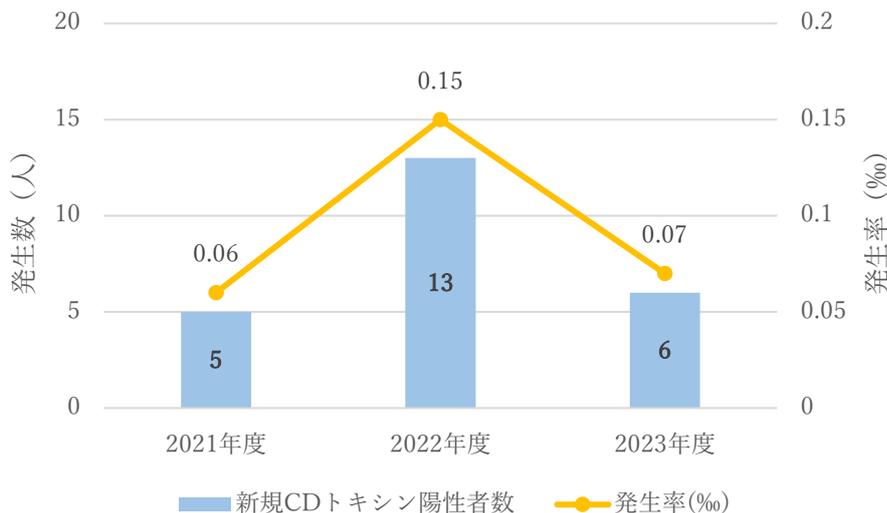
定義

分子 入院 4 日目以降の新規 CDトキシン陽性患者数

分母 10,000 延べ入院患者日数

当院の実績

	2021 年度	2022 年度	2023 年度
新規 CDトキシン陽性者数	5	13	6
在院患者延数	83,023	86,544	85,121
発生率(%)	0.06	0.15	0.07



指標の説明

2022 年度に発生率が 0.15%と上昇していますが、2023 年度には 0.07%に減少しています。極めて低い水準を維持しており、感染対策が徹底されていることが考えられます。

(参考となる情報: 感染対策連携共通プラットフォーム J-SIPHE 年報 2022)